

# 産学連携グループ会議 本年度の活動報告

産学連携グループ会議とりまとめ  
福井大学附属国際原子力工学研究所  
所長・教授 宇埜正美

# 目的と検討すべき課題

## 目的

コンソーシアム内のインターンシップなどの産学連携プログラムを整理し、日程その他について調整する。その他必要事項についても検討する。

## 検討すべき事項

教育対象の拡張の観点から「リカレント教育」や「社会人博士課程」。これを行うためには、まず産業界がどのような人材を欲しているかを明らかにし、それに対し各大学ができるかと突き合わせ、そのうえで、産学連携の取り組みがあれば新たに構築する。

企業が期待する人材、カリキュラムは何か。例えば、博士(後期)課程の修了者が企業が積極的に採用したいと考えるようになるためにはどのような取組が必要かなど。

# メンバー表 (R4.10.6現在)

所属	氏名(敬称略)
福井大学	宇埜 正美
福井工大学	砂川 武義
北海道大学	小崎 完
北海道大学	中島 宏
近畿大学	山田 崇裕
高専機構	高田 英治
	鈴木 茂和
	箕田 充志
日本原子力研究開発機構	加藤 浩
	宮村 浩子
	生田 優子
	上田 雅司
日本原子力発電(株)	澤崎 一郎
日本原子力発電(株)	龍崎 文仁
関西電力(株)	上山 逸平
関西電力(株)	池田 隆晴
東京電力	小野田 幸恵
日立GEニュークリア・エナジー	松井 哲也
東芝エネルギーシステムズ	湯口 康弘
東芝エネルギーシステムズ	藤田 眞也
原産協会	喜多 智彦
原産協会	坂上 千春
三菱重工	小山 正弘

# 令和4年第1回産学連携G会議(R4.06.20)



University of Fukui

## 次第

1.人材育成イ事業企画運営会議等の報告(福井大・宇埜)

2.企業からの人材育成事業報告

2-1 「三菱重工の人材育成事業の取組み」 三菱重工業株式会社  
小山正弘 様

2-2 「夏季インターンシップのご紹介」東芝エネルギーシステムズ  
パワーシステム企画第三グループ 松永泰生 様

2-3 「文部科学省「国際原子力人材育成イニシアティブ事業」での  
日立GEの実施内容およびその後の状況」

日立GEニュークリア・エナジー 松井哲也 様

3.大学が提供すべきセミナー、社会人博士課程、リカレント教育についての議論

4.その他

人材育成におけるアウトカムとは？

# 令和4年第1回産学連携G会議(R4.06.20)

 University of Fukui

## 報告・議論の内容

### ①企業側からの人材育成事業報告

- ・ある程度原子力に興味のある学生も想定し、講座でカーボンニュートラルや小型炉、マイクロ炉についても言及
- ・予算は文科省の人材育成事業に加え持ち出しも
- ・臨界実験装置が廃炉となり、人材育成事業が中止となった

### ②本事業のアウトカム

- ・原子力工学科(の学生募集)を続けている(学)
- ・参加した学生が就職後、この人材育成事業が役に立っているかどうかの経時変化のアンケート(産)
- ・職場でこの人材育成事業で勉強したことが、役に立っているか、仕事に取り組む上での考え方が参考になっているかの調査(産)

# 令和4年第2回産学連携G会議(R4.10.6)



University of Fukui

## 次第

- 1.人材育成イ事業企画運営会議等の報告(福井大・宇埜)
- 2.大学からの産学連携人材育成事業の紹介
  - 2-1 「北海道大学における社会人教育について」中島宏先生
  - 2-2 「近畿大学における産学連携人材育成事業の紹介」山田崇裕先生
  - 2-3 「福井工業大学の社会人教育」砂川武義先生
  - 2-4 「福井大学の取組」宇埜
- 3.その他紹介すべきこと
- 4.大学が提供すべきセミナー、社会人博士課程、リカレント教育についての議論
- 5.その他

# 令和4年第2回産学連携G会議(R4.10.6)



University of Fukui

## 議論の内容

### ①大学からの産学連携人材育成事業の紹介

- ・北海道大学: 社会と原子力と共存を旗印に部門、原子力安全先端研究・教育センター、ANECが連携しMOOC等を利用して実施。
- ・近畿大学: 新人社員研修会(放射線と原子炉見学)、運定員研修
- ・福井工業大学: 公開講座、その他外部機関の事業に協力、アイソトープ研究所(VRもあり)
- ・福井大: 若エネ研他(産)が構築したカリキュラムに協力、クロスアポイントメント制度を利用した学生指導
  
- ・福井県は19歳から人口が減少(需要?)
- ・大学単独では人手不足
- ・福井大はUターン、Iターンを促進するリカレント教育
- ・リカレント教育は、カリキュラム構築段階から産の参入が必要では。

# 今後は

- ・日程調整は難しいものの、原産(産の取組)およびANEC(学の取組)のHPでのリンクの張り方等、見せ方、学生へのアピールの仕方について検討する。
- ・引き続き、産業界が欲する人材とそれに対する大学側が提供する取組とのマッチング、魅力ある社会人博士課程について、産と学とで検討する。
- ・具体的に、福井県嶺南地域をモデルに新たなリカレントカリキュラムの構築について検討を開始する。